安佐医師会病院 医療従事者の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画(2025年度策定)

第1 計画の趣旨

安佐医師会病院は、地域の急性期病院と在宅医療・介護、地域の生活とをつなぐ地域包括ケアシステムの中核を担う病院を目指している。

この計画は、安佐医師会病院の責務を果たすため、医療従事者の職能を十分に発揮させることができる環境整備を病院全体の課題と考え、職務環境の把握、負担軽減、処遇改善策について具体的かつ実効性のある方策を検討、提案することを目的に策定する。

第2 医療従事者の負担軽減や処遇の改善に関する評価体制

安佐医師会病院では、医師、看護師等医療技術職、事務職の代表者を構成員とする幹部会議において、医療従事者の負担軽減策の評価、検討等を行っている。

○ 幹部会議

(1) 責任者	病院長
(2) 構成員	病院長、副院長、総看護師長、事務長、薬剤師長、リハビリ科技師長、リハビリ担当医師、情報システム担当、医事担当
(3) 会議開催	1回/週 ただし医療従事者の負担軽減等に関する評価、検討は1回/年

第3 医療従事者の勤務状況等

この計画の策定にあたり、安佐医師会病院及び医療の状況について、それらの現況を示し、医療従事者の置かれている環境を示す。

1 安佐医師会病院の状況 (2024年度(2月まで))

(1) 病床数	102床
(2) 入院延患者数	29,118人
(3) 外来延患者数	2,343人
(4) 平均在院日数	32日

2 医療従事者の勤務状況

(1)～(5)の①に記載する職員数は、2025年3月1日現在の人数である。
また、②以下の項目の数値は、2024年度(2月まで)の実績である。

(1) 医師

① 職員数	常勤：7人
② 超過勤務時間	常勤：15.9時間/月
③ 休暇取得日数	2.9日
④ 平均当直回数	0.4日/月

(2) (准)看護師

① 職員数	常勤：62人、非常勤：5人
② 超過勤務時間	常勤：4.1時間/月、非常勤：0.3時間/月
③ 平均夜勤回数	4.2回

(3) 医療技術

① 職員数	常勤：36人、非常勤：22人
② 超過勤務時間	常勤：5.0時間/月、非常勤0時間/月

(4) 事務職

① 職員数	常勤：9人、非常勤：5人
② 超過勤務時間	常勤：17.2時間/月、非常勤：0.1時間/月

第4 医師の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

2025年度における医師の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画は、次のとおりとする。

項目	取組状況	今後の取組み
(1) 医師事務作業補助者の配置医師と他職種との業務分担	別紙のとおり。	看護師を含む医療技術職、事務職等の各職種を交えて医師負担軽減策を検討する。
(2) 医師事務作業補助者の配置勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制	北部医療センター等と連携し、当直医師の派遣を受け入れることで、当直を週1回以下としている。	年度中北部医療センター等と連携し、当直回数を週1回以下の体制を維持する。
(3) 交代制勤務・複数主治医制の実施	総合内科において複数主治医制を実施している。	2026年度末までに緩和ケア内科についても複数主治医制とする。
(4) 短時間正規雇用医師の活用	該当者がいないため今後該当があれば検討する。	該当者がいれば改善を図る。
(5) 医師事務作業補助者の配置	75対1体制のため、医師事務作業補助者1人を配置している。	2025年度中に50対1体制のため、医師事務作業補助者2人を配置する。
(6) 正規雇用医師の増員	常勤を週40時間から32時間以上に変更した。40時間の常勤職員を2名から4名に増員し、計7名とした。	2025年度中に常勤医師を8名にする。

第5 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

2025年度における看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画は、次のとおりとする。

項目	取組状況	今後の取組み
(1) 業務量の調整	セル看護体制を用いて、チームを2から3チームとし担当業務量の調整・補完を行っている。	引き続きセル看護体制を推進する。
(2) 看護職員と他職種との業務分担	別紙のとおり。	引き続き医療技術職、事務職等の各職種を交えて業務分担を検討する。
(3) 看護補助者の配置	看護補助者を8名増員した。地域包括ケア病棟においては夜勤1名体制とした。	引き続き看護補助者の増員を図り、個々の業務範囲を拡大する。夜勤1名体制を維持する。
(4) 多様な勤務形態の導入	各種制度を継続している。 ① 妊娠中、本人の申請により夜勤の勤務を免除する。 ② 小学校就学の始期に達するまでの子のある職員は、夜勤免除希望、3交代夜勤希望により、深夜勤務及び時間外勤務を制限する。 ③ 育児短時間勤務については、地方公務員の育児休業等に関する法律に準ずる。 早出、遅出を必要に応じて実施した。	各種制度を継続し、早出、遅出を必要に応じて実施し、日勤時間の変更も希望に添って行う。
(5) 夜勤負担の軽減	朝・夕食時に看護補助者を増員した。月の夜勤回数の上限を4.5回（個人交替は可能）とした。地域包括ケア病棟は夜勤3名以上とした。	引き続き准看護学生のアルバイトを確保し、朝・夕食時の増員を行う。看護師OGのアルバイトも確保する。月の夜勤回数の上限4.5回（個人交替は可能）を維持する。
(6) 安定的な欠員補充と定着促進	定数外職員の確保やアルバイト、非常勤者を採用した。	引き続きアルバイト、非常勤職員を含む職員の確保に努める。
(7) 休暇取得	年休取得7回/年であった。	年休取得6回/年以上を維持する。

(8)医療 DX の推進	病棟看護師には基本的に 1 人 1 台（日勤帯ベース）の電子カルテ端末を配備し、看護記録等の入力リアルタイムで行える体制を整備している。	引き続き病棟看護師には基本的に 1 人 1 台（日勤帯ベース）の電子カルテ端末を配備し、看護記録等の入力リアルタイムで行える体制を整備する。
(9)その他	患者見守りカメラ用 iPad を購入した。	2025 年度中に休憩場所を拡大（会議室等）する。

医師と看護師、医療技術職、事務職等との役割分担について

別紙

業務区分	内容、実施のための条件等	対応者等
★診断書、診療録、処方箋及び主治医意見書の作成の代行	診断書、診療録及び処方箋について、電磁記録により作成する場合、医師の補助者として記載を代行入力し、医師の承認を得る。 その運用は、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」を遵守する。 書面による場合は、医師が最終的に確認し、署名することを条件とする。主治医の意見書についても同様の扱いとする。	事務職員
★診察や検査の予約	医師の正確な判断・指示の下、代行入力を行う。	事務職員
★静脈注射	静脈注射については、「看護師等による静脈注射の実施について」（平成 14 年 9 月 30 日医政発 0930002 号）に基づき、看護師による実施が可能となっており、これを積極的に推進する。 看護師による静脈注射においては、医師の指示に基づいて安全に実施できるよう、事前の研修を行うとともに院内における実施基準を定めており、個々の看護師の能力を踏まえた適切な業務分担のもとで行う。	看護師
★患者、家族への事前面談、補足説明等	医師の治療方針の決定や病状の説明等の前後に看護師等が事前面談を行い情報収集や補足説明を行うことで、より早く円滑に患者や家族と病院の信頼関係の構築に寄与する。	看護師等
環境整備	入院時から看護師と協働し、病室環境を整備する。	リハビリ技師
日常生活援助	食事時のポジショニング、食事介助による嚥下状態の確認、談話室でのレクレーション、車椅子移動、トイレ介助、入浴方法など ADL 訓練として実施する。	リハビリ技師
★医師との合意に基づく、院外及び院内処方せんの変更	院外処方せんの疑義照会は、医師に代わって薬剤師が対応する。医師と合意した部分は医師に代わって回答し、可能な部分は処方修正を代行する。院内処方についてもこれに準じる。	薬剤師
薬剤管理	病棟への薬剤の払出しは点滴、注射等を患者単位で準備する。 薬剤の効能効果、用法用量など最新情報が、電子カルテ上で迅速に閲覧できるようマスターデータを適切に管理する。	薬剤師
薬剤管理指導、投与薬の調整	院外処方体制を維持し、担当病棟での服薬指導、持参薬管理や病棟常備薬の薬剤管理を担う。 1 週間分の処方のセットのサポートを行う。	薬剤師
検査準備	翌日の入院患者の検体検査の準備を行う。 新型コロナ、インフルエンザ検体採取の協力をする。 患者移送の手伝いをする（次の検査など）。	臨床検査技師
新人看護師の教育	新人看護師への教育については、薬剤に関する講師は薬剤師が、検査に関する講師は臨床検査技師が行う。	薬剤師 臨床検査技師
栄養チームの活動	栄養チームの活動は管理栄養士が主導する。	管理栄養士
退院支援	退院困難アセスメントは看護師と協働で社会福祉士が実施する。 退院支援は社会福祉士が主として行う。	看護師 社会福祉士
★医療機器の管理	生命に影響を与える機器等のメンテナンス等については診療放射線技師が実施する。	診療放射線技師
看護ケアの補助	病棟内において、看護職員が行う看護ケアの補助を行う。 日常生活援助を行う。	看護補助者
書類・物品の管理	書類・伝票の整理やケア用品、機器の洗浄・消毒は看護師と協働で看護補助者が行う。	看護補助者
料金回収	有料洗濯機、乾燥器機、マスクの自動販売機の料金回収は事務職員が行う。	事務職員
口腔ケア	口腔スクリーニング及び口腔ケアサポートは他院から応援の歯科医師、歯科衛生士が行う。	歯科衛生士 (他院応援)
皮膚排泄ケア	皮膚排泄ケアは他院から応援の皮膚排泄ケア認定看護師によるアドバイスを受ける。	看護師 (他院応援)